



TITLE:

比較認知発達(ベネッセコーポレーション)研究部門(III.研究活動)

AUTHOR(S):

佐藤, 弥; 高島, 友子; 伊藤, 康世

CITATION:

佐藤, 弥 ...[et al]. 比較認知発達(ベネッセコーポレーション)研究部門 (III.研究活動). 霊長類研究所年報 2009, 39: 73-74

ISSUE DATE:

2009-09-10

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/166715>

RIGHT:

本の霊長類学 60 周年シンポジウム (2008/07 東京).

- 4) 高井正成, 西村剛, 江木直子 (2008/6/1) グローバル COE 生物多様性・霊長類学ジュニア教室「この手でサワッテみよう霊長類の化石たち」. 京都大学総合博物館 京都.
- 5) 渡邊邦夫 (2008/5/3) 「スマトラ島の動物について」. 東山動物園.
- 6) 渡邊邦夫 (2009/2/7) 「最近の野生ニホンザルと個体群管理の方向性」. 愛知県生物多様性キャラバンセミナー 新城市.

寄附研究部門

比較認知発達 (ベネッセコーポレーション) 研究部門

佐藤弥 (寄附研究部門准教授), 高島友子 (技術補佐員), 伊藤康世 (教務補佐員)

<研究概要>

A) 表情コミュニケーションについての実験心理学的研究

佐藤弥

表情や視線による対人コミュニケーションにおける情報処理過程を, 反応記録・ビデオ録画・筋電図計測などにより検討した. 定型発達者および発達障害者を対象とした.

B) 表情コミュニケーションについての神経科学的研究

佐藤弥

表情や視線による対人コミュニケーション課題を遂行中の神経活動を, fMRI・深部脳波などを用いて計測した.

C) チンパンジーとヒトの比較認知発達研究

林美里

物の操作や道具使用を認知発達の指標として用いて, チンパンジーとヒトを直接比較する研究をおこなった. 積木やカップを用いた非言語性の検査課題を対面場面で実施し, 操作の過程を分析して, 両種の直接比較をおこなった. ヒトの研究は竹下秀子 (滋賀県立大学) 氏との共同研究である.

<研究業績>

原著論文

- 1) Sato W, Fujimura T, Suzuki N. (2008) Enhanced facial EMG activity in response to dynamic facial expressions. *International Journal of Psychophysiology* 70(1):70-74.
- 2) Sato W, Kochiyama T, Uono S, Yoshikawa S. (2008) Time course of superior temporal sulcus activity in response to eye gaze: A combined fMRI and MEG study. *Social Cognitive and Affective Neuroscience* 3(3):224-232.
- 3) Sato W, Kochiyama T, Uono S, Yoshikawa S. (2009) Commonalities in the neural mechanisms underlying

automatic attentional shifts by gaze, gestures, and symbols. *Neuroimage* 45(3):984-992.

総説

- 1) 林美里 (2008) 突起のついた積木をつむ. *科学* 78(9):996-997.
- 2) 林美里 (2008) 物にかかわる知性をさぐる. *発達* 29(115):104-112.

報告

- 1) 藤村友美, 佐藤弥, 鈴木直人 (2008) 動画および静止画表情に対する顔面筋電図反応—表情の覚醒度が及ぼす影響—. *電子情報通信学会技術研究報告* 108(317):23-28.
- 2) 佐藤弥, 魚野翔太, 松浦直己, 十一元三 (2008) 非行少年における表情認識の問題. *電子情報通信学会技術研究報告* 108(238):1-6.

著書 (分担執筆)

- 1) Sato W (2008) The information processing role of the amygdala in emotion. (Affective computing: Emotion modelling, synthesis and recognition) (ed. Jimmy O) p.297-308 I-Tech Education and Publishing.

学会発表

- 1) Hayashi M (2008) Stacking blocks in chimpanzees and humans. Symposium on Comparative Cognitive Science 2008 "Primate Origins of Human Mind" (2008/05, Kyoto).
- 2) Hayashi M, Takeshita H (2008) Comparison between chimpanzees and humans in face-to-face tasks using blocks. International Primatological Society XXII Congress (2008/08, Edinburgh, UK).
- 3) 林美里 (2008) 幼児期以降のチンパンジーを対象とした対面検査課題. SAGA11 (2008/11, 東京).
- 4) 佐藤弥 (2008) 動的表情を処理する心と脳のメカニズム. 第 13 回日本顔学会大会 (2008/10, 東京).
- 5) 佐藤弥 (2008) 表情と視線の交互作用: 心理学と神経科学の知見. 第 10 回日本ヒト脳機能マッピング学会 (2008/06, 山形).
- 6) 佐藤弥, 魚野翔太, 松浦直己, 十一元三 (2008) 非行少年における表情認識の問題. *電子情報通信学会* (2008/10, 東京).
- 7) 佐藤弥, 魚野翔太, 岡田俊, 十一元三 (2008) アスペルガー障害における視線による注意シフト (1) —関下呈示の影響—. 第 72 回日本心理学会

(2008/09, 札幌).

- 8) 魚野翔太, 佐藤弥, 十一元三 (2008) アスペルガー障害における視線による注意シフト(2) —動的表情の影響—. 第 72 回日本心理学会 (2008/09, 札幌).